

# 中央公民館エリア「公共施設」再編研究ワークショップ



## かわら版 20180630 Vol.3

全4回のワークショップの3日目。前回までのWSで、エリア内公共施設の「現状の課題や問題点」を確認し、それに対する“自分なり”の「解決策・アイデア」を出し合いました。

今回のWSでは、これまでに出了様々な意見を市若手職員が、事前にグループごとに「ゾーニング」し、どんな「モノ（施設）」が欲しいのかではなく、どんな「コト（機能）」をしたいのかをグループで話し合い、施設再編のコンセプト（キャッチフレーズ）を考えます。

第3回（中央公民館講座室）  
2018年6月30日（土）9：30～11：40

①6/9 ②6/16 ③6/30 ④7/14  
全4回（土曜日AM開催）

第3回目の参加者は、小学生4人を含む合計32人。高校生（Bグループ）はテスト前のため、別日程で実施することになりました。

4人の小学生は、事前アンケートを通じて“どんなコトをする場所がほしいか”を考えてきてくれました。

会場内は、活発な意見が飛び交い、「真夏日」に負けない熱気であふれていました。

- 第3回のテーマ「考えを形にしてみる」
- どんな「コト（機能）」が必要か考える
  - 必要な機能をどう実現するか考える
  - 施設再編案のキャッチコピーを考える

グループ作業①  
「ほしいモノ」ではなく「必要な機能」を考える。  
例) 図書館【モノ】⇒本を読む・借りる【コト】



高校生グループ（B）は、7月11日に、別途ワークを実施。最終回に向けた準備を行います。

## グループ作業②

「必要な機能（コト）」をまとめて、施設再編案を考えるコンセプト「キャッチフレーズ」を決める。

Aグループ 「大人から子供まで楽しみを学ぶ場」	Cグループ 「共に育む『共育エリア』」
<p><b>【必要な機能・コンセプト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園に求めるコト 明るい、のんびりできる、様々な運動が可能</li> <li>施設に求めるコト wi-fi、屋内で運動ができる、飲食・雑談ができる 本（マンガ）の貸し出しがある お年寄りが元気になるような機能（子どもとの交流）</li> </ul>	<p><b>【必要な機能・コンセプト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが楽しく遊び、大人も交流できる。</li> <li>遊んでいる子どもを見守ることができる。</li> <li>鴻巣の魅力を発信する。</li> <li>多世代の人が、多目的に、平等に利用できる施設。 (勉強、仕事、遊び、イベントなど)</li> </ul>
<p><b>【実現するための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園：樹木剪定、街灯、アスレチック設備、芝生、ランニングコース、動物や植物エリア</li> <li>駄菓子屋、カフェ、高齢者介護施設</li> <li>現在の利用者制限を緩和し、誰でも利用できる施設。</li> <li>学校の体育施設を開放。学校利用時間外の一般利用。</li> </ul>	<p><b>【実現させるための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人が、公園の管理や見守りを進んで協力できるような仕組みづくり。</li> <li>公園、公民館に来た人が、鴻巣のことを知れるような展示。魅力発信を継続し、人が集まる仕掛け。</li> <li>公民館に変化を求めているため、子どもが遊べる場をメインに、大人が見守れる場所を作りたい。</li> </ul>
Dグループ 「幸ノ巣だよ！！ 全員集合」	Eグループ 「コミュニティサロンは公民館で♪」
<p><b>【必要な機能・コンセプト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多世代の市民の集う場所を充実</li> <li>高齢者の孤立防止（引きこもり対策）</li> <li>利用に係る制約を少なく 学校校庭の開放、公民館・児童館等の縦割り解消</li> </ul>	<p><b>【必要な機能・コンセプト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園に求めるコト 遊びやすい空間（子どもから高齢者まで安全に）</li> <li>施設に求めるコト 人が集まり、「話す（しゃべる）」ことができる 活動を発表できる機会の創出</li> </ul>
<p><b>【実現するための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的には小中一貫校にして、機能を集約する。</li> <li>機能に応じて、一般開放・非開放を決め、適切な配置に。</li> <li>学校統合によりできた新たな空間には、民間団体も利用できる機能を増やし、営利活動も自由に。</li> <li>周辺の高齢者が出てきやすいような機能を充実させる</li> </ul>	<p><b>【実現するための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園には自然を残し、段差をなくす</li> <li>施設は一体化、複合化し、利用率を最大限に上げる工夫を（予約方法、他の公民館等との横つながり）</li> <li>カフェなどに民間業者を利用。駐車場も活用</li> <li>町内会の負担にならないような仕組み。</li> <li>学校との連携。先生も巻き込む。</li> </ul>



今日のワークをとおして、公共施設を「施設（モノ）」ではなく「機能（コト）」から考えるというのは、意外に難しいということが分かったのではないのでしょうか。ワークショップ最終回に向けて、次の3つの視点もぜひ考えてみてください。

**①みなさんが公共施設で関われることはありませんか。**

（利用するだけでなく、花壇の管理など関われることを探しましょう。）

**②ワークで出た利用は、「いつ」したいものですか。**

（朝・昼・夜・平日・土日・春・夏・秋・冬・・・いつ、どんな空間をつくるか。）

**③あなたは、本当にそこに行きますか（集まりますか）。**

（「みんなが」「高齢者から子どもまで」というのはすばらしいこと。でも本当に“あなたは”行きますか？）



湯浅先生

主催：鴻巣市

協力：公共資産経営研究プロジェクト（BaSSプロジェクト）